

進展するか医学改革

動き始めた

全國醫學部長病院長會議

医学部改革を推進する為、昨年、委員会においては講座、大学院、うが、学生も助議会の意見が反響
充足をみた全国医学部長病院長会、博士制度等について審議が進めら
議は、また本格的な活動状態には、されぬものである。この会議と
至ては、五月末日に声、平行して国立大学医学部長会議、の事を急遽において会議が進めら
明書を発表しその第一歩を踏みた、国立大学病院長会議においても話
した。果してこの会議が、真の医、合が行われるが、改革案の具体
学改革の原動力となり得るか否か、的な骨子が組みあがるのはまた先
ということに関しては、学生や若、の様である。いずれにせよその時
手フルプの多くは否定的な見方、点で論争が起ることは必至であらうである。

声
明
書

強大ではあるが、それぞれ異なる内情を抱え、改革の方向も少なからず相違している為、各者の意見調整の必要性等その内に問題を抱えている。

声期誓が指摘している二点について、その一は、国立大学に關しては人員不足が第一の問題点であるので、總定員法の規制を離れて増加すること。公私立大学では、増員費を増加し、その半の分だけ

全国の医歯機関の運営に責任をもつわれわれは、各自の大学における検討と試行を基礎とし、「医歯学部長・病院長会議における「医学教育のあり方」、「医学部における研究のあり方」、「大学病院のあり方」の三委員会の大審議、またその中間報告を踏まえての総会での討議を通じて、長期の展望をもつ「現実的な課題に適切に解決の方途を求めている。

これら要請の厳しきにもかかわらず、現実の医歯制度と医歯機関の状況はなお旧態のままにとどまり、さき迄の医師法の一部改正に当たつての衆参両院の付帯決議に基づいた充分なる措置も講ぜられず、本来の使命たる教育、研究、診療その要員不足を無給の研究者、医療師、常勤嘱託などによつて補いつつ、不十分しかまる施設と予算のものと行われているのが実態であ

助成金を出すこと、以上の二つの方法により諸要員不足の解決にあつたとしている。その三については、一によって教育研究スタッフと設備が充たされた上で、既設医療機関における学生の定員増をもとめ医療機関の主目的の一つは、国民の健康に寄与する医師の育成にある。現今の医師増員の要望と、さらには医師法の一部改正にともなう卒後研修の導入とは、医療教育の効率化とその向上のためは、医療機関の人的、物的両面の充足を推し進めるべきである。優れた医師の育成と高度の医療の保証とが国民に対する国の責任であることを認識するならば、このような状況を早急に打開するためは、医療機関の人的、物的両面の充足を推し進めるべきである。

を行つたものである。これは
医科大学新設の申請が、充分な財
政的裏付けがなくなされたことに
對する批判が含まれているであろ
う。医師養成については、「医学
教育のあり方」委員会では、六年
一貫講義、教養と医学を平行させ
る等々検討がなされている。しか
し、教養との対立や学生の反発等
が強い為、現在のところ各大学の
実情を考慮した上で、それぞれに
即した方法をとるべきであること
になっている。

今年度の総会は七月十日、土曜
日の午後、医学部記念講堂に行
なわれた。午後二時からの開始
したが、八〇名程度の出席者の
もついで、総会の議事が進行した。
即ち、第一に学内の人事変更につ
いて、学長選挙法の決定がどうに
行なわれ、総会次第に従つてま
か行なわれ、四十五年八月一日付

なのはな同窓会

低調さを浮彫り

あのはな同窓会開かる

低調さを浮彫りにした総会

今年度の総会は七月十日、土曜日の午後、医学部記念講堂にて行なわれた。午後二時からの開始だったが、八〇名程度の出席者のもので、総会の議事が進行した。会には益常任理事の司会により行なわれ、総会次第に従つてまず鈴木会長からいつも乍ら出席者の以つて、相模前医学部長が学長に、松本旺教授が後任医学部長に、香月肺研教授が付属病院長に、瀧任、農山村医学研究施設の棚沢教授と法医学の宮内教授が停年退職して名誉教授に任じられたことと、昨年末に瀧沢名誉教授死去されたこと。更に、空席だった教養部を以つて、松本旺教授が、村山教授（衆理学）、岡本

東医体めざして

フル回転の運動部

今年の東日本医科学生総合体育大会夏季大会は、岩手県大の主幹により盛岡、北上市を中心に行われる。定期試験が終つた十日過ぎから、各部は強化練習、合宿へと本格的な練習体制に入った。

四十二、四十三年と連続優勝を遂げて以来、各部とも停滯しており一層の奮気が望まれるが、期待薄という見方が強い。原因を探れば第一に、全体的に部員数が減少したことがあげられよう。入学式をピークにした必死の勧誘にもかかわらず、新入部員を獲得できなかった部も少なくない。第三には部員のクラブ観の変化が指摘されている。即ち、以前は一心にクラブ活動にうち込む者が多かったのに対し、現在ではクラブを一種の「リフレッシュ」の場と考える者が少なからずいるという事実である。試合は出たい者が出ればよい。暇な時に楽しむだけで充つたという考え方である。当然そこには連帯意識の低下とともに、字刃の低下が起るであらう。しかし、それを

教授（皮膚科）、牧野教授（精神外科）、熊谷教授（第二内科）奥田教授（第一内科）に、少なからぬ学内の反対の中で決定したことが報告された。第二に、学内状況として、10月行動委員会の非常な反対に対して奮努力を以つて対処し、現年、一応表面的には整然として教育、研究、診療が行なわれて、学生も勉学にいそしんでいるとの事。又、研修の問題について、四十四年度卒業生研修団体（即ち研修修から個

教授の名譽会員決定、新役員（理事と評議員）、四十五年度決算報告、四十六年度予算が、役員会案通りに拍手を以つて承認。十分開の休憩の後、千早大学教育学部教授の、テレビでもなじみのある清水暁八郎教授から、「文明の進歩と環境破壊」の演題で、七十年代の課題と進歩とはどういうことか公害とは、そして日本及び人類の今後はどういう方向に向かうか」ということに對する清水教授らし

人研修の形に變えて、大学院生、
医員、研究員の三者から一つを選
択させていること。更に空席にな
っている法医学教室、衛生学教室
中央検査部の三教授を選考委員
会で目下考慮中との報告。種々の問
題を投げかけている無給副手解消
のため努力中との事に加えて、図
書分館が書庫を除いて、玄関とと
も二窓の完成を見、新四號の方

講演風景



も諸方面からの批判はあるが、明年より三十万月計で着工予定で現病院はリサーチセンターとして使用の予定との報告がなされた。次いで、本年度行なわれることになっている学術会議会員の改選に、本学の北村教授、耳鼻咽喉科が不出身されるという紹介があった。現在公判が行なわれ学内でも問題提起やシンポジウムが開かれるなどしている、二内科問題については報告も質問も全く行なわれなかった。次いで会務報告がなされた。その後、相模学長、柳沢、宮内両名登壇した。

どぞうろっふ

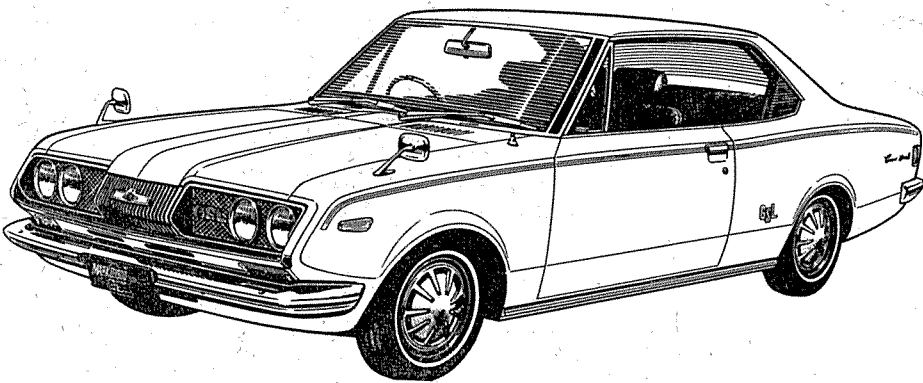
不成續の口実とするのは残念なことだ。

年々拡大し、一種のお祭りの行事になった東医体であるが、各部の痼疾によって二年間の雪辱を果してもらいたいものである。

最近の都市における自動車ラッシュは、益々その激しさを増し、夏を迎えて全く殺人的とも思えるようになって来たが、その混雑及び駐車難の波が本学にも増し寄せてきている。▼先頭行なわれた付属病院での本学乗り入れ車線の調査に依ると、一週間の平均で、一日約千四百台もの自動車が出入りし、駐車を利用している。▼詳しい統計資料は未発表だが、この内容は、総務職員、学部教職員、患者関係、業者及び学生が大部分であるが、付近の住民もかなり利用しているらしいとの事であった。

▼現敷敷地内には、最高三百六十九台の駐車スペースがあるが、付近の道路が狭く、そして県内唯一の大学附属病院である事を考えるのと無理もない事かもしれない。▼欠陥、公害と騒がれながらも依然として車の販売計画をみると、この先学内のみならず、日本国中が車で溢れるのも意圖上の事とは言いつけられないものがある。▼最近、学生の自動車通学者増加は目覚ましく、試験期間ともなれば、日本各地のライセンスブリードを大学へ等と言われ、パンカステイルで質素な寮から通つてもらうらしい。▼親にしても、その余裕が有れば昔さきの訳には行かぬだろう。それにしても何とこの余裕ある寮院の多いことが、経済的に恵まれないと入試を突破できないのだろうか、それとも学生でも自動車が必要なのだろうか。もしかしたら親が脱税して息子に自動車を買ひ与え、息子は奨学金でその車を乗り回しているのかもしれない。これは単に、私個人のヒガミであらうか。

精かなイーグルマスクが魅力。鍛えぬかれたおとなの車です。



コロコ MARK II 1900 ハートツプ・GSL

ニューコロナ1600. 1700. 1900. も当店で取扱いしておりますのでマークII共々皆様の往診に遠出のレジャーにご愛顧くださいますようお願いいたします。

★★★★県内最大のサービス網を誇る★★★★

千葉トヨペット

千葉市稲毛海岸4-5-1 ☎0472(41)1181・大代表 〒280

薬価新収載 15mg・1管 130.00

